

平成 22 年度第 3 回民間社会福祉施設職員合宿研修会実施要綱

1 目 的

民間の特別養護老人ホーム入所者の処遇に従事している中堅職員に対し、必要な専門知識、技術を修得させるとともに、合宿研修をとおして参加者相互の交流を図り、コミュニケーションを深めることにより、その資質の向上を図ることを目的とする。

2 主 催 財団法人 社会福祉振興・試験センター
〔財団法人 中央競馬馬主社会福祉財団助成事業〕

3 後 援 厚生労働省

4 実施期間 平成 22 年 11 月 8 日（月曜日）～11 月 12 日（金曜日）までの 5 日間

5 研修会場 ホテルルポール麹町
東京都千代田区平河町 2-4-3 電話 03-3265-5361（代）
（交通）地下鉄有楽町線「麹町駅」下車 徒歩 3 分
（JR 山手線有楽町駅乗り換え）

6 宿泊場所 上記に同じ

7 受講者の資格

民間社会福祉施設（公設民営を含む）の特別養護老人ホームに勤務する介護職員で、次の各号のいずれにも該当する者とする。

- （1）社会福祉施設における業務経験が通算して 3 年以上で、かつ、当研修受講後も引き続き当該法人の施設に勤務する意志のある者
- （2）年齢満 50 歳未満の者
- （3）民間社会福祉施設職員合宿研修会の未受講者である者
- （4）研修期間中、宿泊できる者

8 受講定員 55 人

9 受講希望者の推薦

受講希望者については、「平成 22 年度第 3 回民間社会福祉施設職員合宿研修会受講者推薦書」（別紙様式 1）を提出すること。

10 研修内容

研修科目及び時間（予定）

科 目	時間	科 目	時間
老人福祉行政の動向	1.5	介護技術と介護演習	3.0
ケアプランの基礎知識	2.0	高齢者の医学	1.5
高齢者の心理－認知症介護の基本－	3.0	福祉用具と自立支援	2.0
排泄の仕組みと排泄障害	1.5	事例研究	7.0
ユニットケア	3.0	グループ研究討議	4.0

11 研修費用

(1) 研修費…20,000 円（食事代、テキスト代、懇談会代として）

(2) 旅費及び宿泊費等

ア 旅 費

旅費は、当センター負担とし、研修期間中に現金で支給する。ただし、実際に利用した交通手段（運賃）の如何に拘らず、当センターの定めるところにより算定した鉄道運賃又は航空運賃によることとする。

イ 宿泊費

11月8日（月）から11月11日（木）までの4泊分を現物支給する。

12 体験事例の提出

- (1) 「事例研究」に資するため、受講希望者は、施設で体験した「入所者処遇において成功した事例又は現在直面している事例」をその経過が明確にわかるよう、次の
- ① 《個別援助事例》又は②《集団援助事例》のいずれか一方を、推薦書と同時に提出すること。
 - ② 《個別援助事例》をテーマとする場合は、「事例研究」様式1によること。
 - ③ 《集団援助事例》をテーマとする場合は、「事例研究」様式2によること。
- (2) なお、「事例研究」において発表する事例は、受講者として決定された者の体験事例の中から、当センターが、担当講師と打合せの上 5 ケースを選定し、資料としてまとめ、別途、受講者全員に事前に配付する。

13 グループ研究討議の希望テーマ及び実例の提出

- (1) 研修期間中、当センターが定めたテーマによりグループ研究討議を実施する。受講希望者は、「グループ研究討議の希望テーマ」（別紙様式2）により希望するグループ（希望のテーマ）に○印を付し、推薦書と同時に提出すること。

- (2) 受講者として決定された者は、グループ研究討議を有効かつ能率的に行うため、割り当てられたグループ（テーマ）に関し、実例をもととした問題提起を 800 字以内（A4 判用紙又は 400 字詰原稿用紙に下記要領により作成）にまとめ、別途提出すること。

なお、グループ割は、当センターにおいて調整し決定するので、必ずしも希望したテーマ別グループに割り当てられないことがあること。

A グループ
「・・・した（している）事例」
都道府県
指定都市 施設名 職 種 氏 名
.....
.....

※文体は常体とすること。
（・・・だ。・・・である。）

14 受講者の携行品

- ① 印鑑
- ② ノート、筆記用具
- ③ 健康保険証
- ④ 日常使用の家庭常備薬
- ⑤ スポーツウェア、スニーカーの類

15 レポートの提出

- (1) 受講者は、研修終了後、当センターが指定する期日までにレポートを提出すること。
- (2) レポートのテーマは、研修期間中に提示するものであること。
- (3) 提出されたレポートは、報告書としてまとめ、関係機関に配付するものであること。